Hitotsubashi University
Business School

一橋ビジネススクール

一橋大学大学院 経営管理研究科

MBA 2025

HITOTSUBASHI UNIVERSITY
HUB
BUSINESS SCHOOL

日本企業の経営革新と高度経営人材の育成

一橋大学は、日本におけるビジネス教育・研究の中心として、
企業・社会の中核を担う人材である “Captains of Industry” を
数多く輩出してきました。

一橋ビジネススクール（HUB）は、そうした建学の精神に基づき、
新たな時代の高度経営人材を育成するため、
多様なプログラムを開講しています。
少人数体制による手厚い指導の下で得られる充実した学びを、
すべてのプログラムで重視しています。

学びのニーズに応じた多様なプログラム

日本語・英語の言語が選べるほか、経営の全領域をカバーするMBAに加え、金融財務のプログラムや観光MBAといった特定領域のコースを設定しています。開講時間帯は全日制のほかに、働きながら通える夜間・土曜のプログラムも用意しています。

ゼミナールを核とする少数精鋭教育

ゼミの人数は最大10人程度。各自の問題意識にしたがって調査・研究を進め、教員や受講者との討議を通じて経営思考力を深める場となります。

理論と現実の往復運動

理論やフレームを通して複雑な現実を観察し、その一方で、自分の目で見た現実の観察結果から、新たな理論的洞察を導き出します。そうした往復運動を繰り返し、理論と実践をバランスよく学んでいきます。

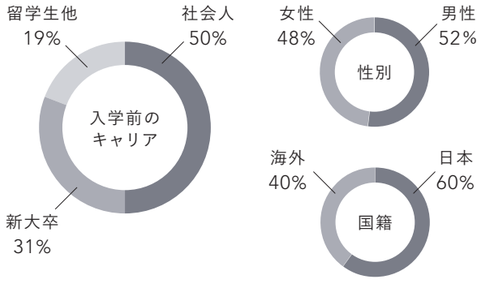
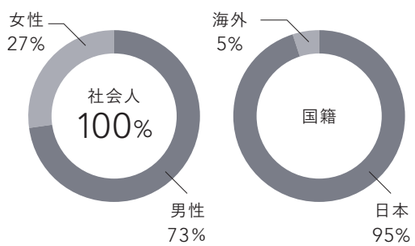
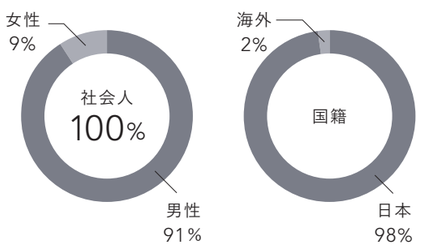
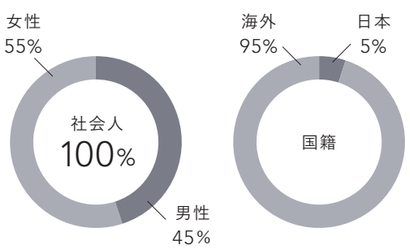
一橋大学MBAプログラム
紹介動画はこちら

世界に通用する経営力を身につける

一橋ビジネススクール（HUB）は、
日本語プログラムの経営管理専攻（School of Business Administration: SBA）と、
英語プログラムの国際企業戦略専攻（School of International Corporate Strategy: ICS）の
２つのスクールで構成されています。
その下で、４つのMBAプログラムが設置されています。

国際認証の取得

経営管理専攻および国際企業戦略専攻は、世界最大のビジネススクールの品質評価機関AACSB Internationalの国際認証を2021年に取得しています。AACSBの認証を取得しているのは世界の主要なビジネススクールのわずか6%のみであり、両専攻は同認証を取得している日本で唯一の国立大学です。厳格な認証プロセスを通じて、高品質のマネジメント教育を提供しています。

専攻	日本語プログラム　経営管理専攻（SBA）			英語プログラム　国際企業戦略専攻（ICS）
プログラム	経営分析プログラム	経営管理プログラム サブプログラム： ホスピタリティ・マネジメント・プログラム	金融戦略・経営財務プログラム	MBA
概要	経営層としての活躍が期待される実務経験者や、高度専門職でのキャリアを希望する社会人・新卒の方を対象として、先端的なマネジメント研究に取り組む教員による講義や実務家との対話を通じて優れた分析能力と深い思考力を養成し、将来を担う高度経営人材を育成します。	都心の企業・官公庁に勤務されている方を主な対象として、企業や社会の将来を担う高度経営人材を育成します。経営の各領域で最先端の研究に取り組む常勤教員による講義と、豊富な経験を有する実務家教員による講義が効果的に組み合わさることで、「理論と現実の往復運動」を体感できるプログラムです。	確かな金融知識に裏打ちされた、世界で通用するキャプテンズ・オブ・インダストリーの育成を目指します。さまざまなデータを計量的に分析していくうえで必要となる統計学やデータ分析の知識や技術を習得し、データに基づいた金融戦略・経営財務の意思決定を実現する独自のカリキュラムを展開しています。	ICSは、異なる文化・多様な学問領域・ビジネスに対するさまざまな考え方の架け橋となり、「2つの世界の融合（Best of Two Worlds）」の実現をミッションとして掲げています。日本を熟知し、アジアと協働し、世界に大きなインパクトを与えるグローバル・ビジネスリーダーの輩出を目指しています。
修了年数	2年間	2年間	2年間	2年制と1年制のいずれかを選択
入学時期	4月	4月	4月	9月
開講時間	平日昼間	平日夜間・土曜	平日夜間・土曜	平日昼間
場所	国立キャンパス	千代田キャンパス	千代田キャンパス	千代田キャンパス
実務経験	—	3年以上	2年以上	2年以上
在学生の分布	平均年齢28歳（5年一貫学生を除く） 	平均年齢37歳 	平均年齢35歳 	平均年齢31歳 
修了要件	・2年以上在学 ・34単位以上を修得 ・ワークショップレポート（学位論文に相当）の審査および最終試験に合格	・2年以上在学 ・34単位以上を修得 ・ワークショップレポート（学位論文に相当）の審査および最終試験に合格	・2年以上在学 ・34単位以上を修得 ・学位論文（修士論文）の審査および最終試験に合格	・1年制コース54単位以上を修得 ・2年制コース56単位以上を修得

経営分析プログラム

場　所　国立キャンパス
開講時間　平日昼間

フルタイムでじっくり学ぶ
グローバルに活躍できる
高度経営人材・高度専門職人材を育成

藤原 雅俊 教授
経営戦略論
イノベーション論

プログラムディレクターからのメッセージ

現象を読み解く理論の眼 現場の洞察力

経営分析プログラムは、将来を担う高度経営人材の育成を目指した全日制のMBAプログラムです。複雑な市場環境の中で骨太の戦略を立てて組織を力強く率いるには、現象を読み解く理論の眼をしっかりと身につけ、現場から深い洞察を引き出す力を養うことが必須となります。そのため我々は、広く経営に関わる理論と実践を学ぶ科目を用意し、教育コンセプトである「理論と現実の往復運動」を素早く何度も繰り返す場を提供しています。全日制のプログラムで多様な受講者とともに経営力をじっくりと養う２年間は、自らのキャリアのみならず長い人生においても、かけがえのない財産になります。ぜひ、経営分析プログラムにおける学びを通じて経営を大きく深く考える力を養い、産業界を牽引する経営リーダーとして羽ばたいてください。

経営分析プログラムの特徴

POINT 1 フルタイムで深く学ぶカリキュラム

企業経営に関わる理論をしっかりと修得し、高度な専門知識と分析能力を身につけることができます。フルタイムで徹底的に考え抜くからこその深い学びの機会が得られます。

POINT 2 国籍や経歴の異なる多様性豊かな仲間

多様性豊かな仲間とともに学び合うことで、多様な価値観を生かした創造力を養成します。英語で経営を学ぶ講義を通じて、グローバルに活躍するための学習機会を得ることもできます。

POINT 3 国内外での豊富な研修機会

国内での企業訪問や海外への訪問研修など、フルタイムだからこそ実現できる豊富な課外活動機会にも恵まれています。

POINT 4 産業界を牽引する経営リーダーの育成

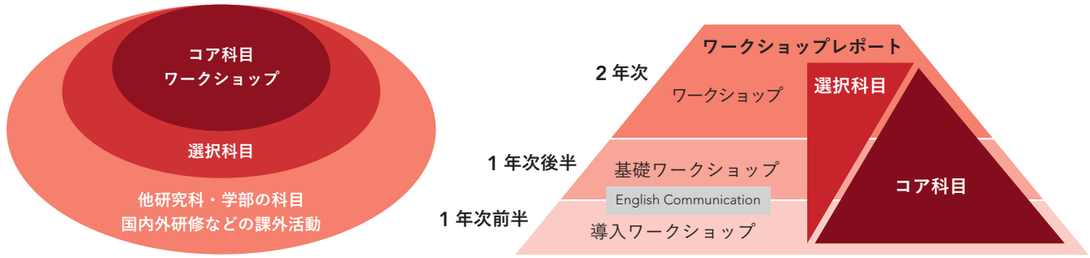
各科目でゲスト登壇する実務家との対話を通じて、幅広くさまざまな産業における最前線の動向や先端的な知見を学びます。理論と現実の双方を深く捉えることにより、優れた経営リーダーを育成します。

カリキュラム

経営学・会計学・マーケティング・ファイナンスなどの基本的な知識の修得に加えて、高い視点と深い洞察に基づいて企業経営を構想するための独自プログラムを提供しています。

①講義 （コア科目、選択科目）	基本となるコア科目と、より進んだ内容を学ぶ選択科目を通じて、企業経営に関わる専門知識を身につけるとともに、高度なマネジメントに不可欠となる深い洞察力と広い構想力を身につけます。また、英語によるコミュニケーション能力を高めるEnglish Communicationを必修科目としています。
②演習 **導入ワークショップ** （１年次前半） **基礎ワークショップ** （１年次後半） **ワークショップ** （２年次）	各種のワークショップはいずれも少人数で構成され、教員やグループメンバーとの密度の濃い対話を通じた深い学びの場になります。1年次から2年間をかけて段階的に学んでいくことで、自身の問題意識を研究課題として追究していくことができます。
③課外活動	実学をより深く修得するため、企業訪問や海外研修を実施するとともに、学外のビジネスコンテストや企業との共同プロジェクト等を任意参加で実施しています。

経営分析プログラムのカリキュラム体系



主な科目

コア科目	経営戦略、マーケティング、財務会計、企業財務、経営組織、マネジメント・コントロール、企業データ分析、経営哲学
選択科目	ビジネス・エコノミクス、マーケティング・リサーチ特論、証券分析とポートフォリオマネジメント、国際金融、金融リスクマネジメント、M&Aの理論と実務、特別講義（企業経営分析）、戦略的リーダーシップ、ポートフォリオマネジメントの理論と実務、サステナブル・ファイナンスの理論と実務、サステナビリティ経営、企業価値経営論、オープンイノベーション戦略とウェルビーイング、Global Managementなど
英語コミュニケーション科目	English Communication

在学生の声

日本の製造業全体の発展に貢献できる人材へ

渡邊 皓太さん

Q1 志望した動機について教えてください。

私は建設･鉱山機械メーカーに勤務しており、入学前は営業職およびマーケティング職に従事しておりました。その経験から、私たちの業界では、脱炭素やDX推進の流れがある一方で、新興メーカーとの競争が激化していることを実感しておりました。したがって、競争優位を生み出す人材が今後より一層重要になると考えております。本プログラムでは、経営学の知識を現実の課題に応用できる深い思考力を養い、理論や事例に偏らない戦略的思考を学べる点に魅力を感じました。また、少人数制でのフルタイム授業により、学びの質と量がしっかりと確保されているため、本プログラムを志望しました。

Q2 仕事や家庭との両立はどのようにしていますか。

会社の協力により、現在は学習に専念できる環境を整えています。家族とは、課題や試験前以外の週末に一緒に過ごすようにしています。

Q3 今後どのような人材を目指していきますか。

一橋ビジネススクールで培った経営学の知識と思考力を生かし、所属会社の持続的成長、ひいては日本の製造業全体の発展に貢献できる人材を目指します。

修了者の声

背景にあるメカニズムに踏み込む

グローバル食品メーカー勤務　小島 由梨さん

「このプログラムを選んでよかった」と思ったこと

理論を基礎から学び、深く思考する力を養えたことです。ビジネススクールというと、フレームワークを習って流行りの企業についてディスカッションするというイメージも持っていました。しかし、本プログラムでは表層的な議論に留まらず、企業の成功や失敗の背景にあるメカニズムについて踏み込んで考えるトレーニングができました。先生方や仲間ととことん議論し、考える力を鍛えたい方におすすめです。

このプログラムで身についたこと

深く思考する力に加えて、物事を広い視野で捉えようとする姿勢が身についてきたと感じます。現在所属する企業でも、短期的な製品戦略だけでなく中長期的なビジネス機会の検討にも積極的に関与しています。

修了後の就職先　アクセンチュア、花王株式会社、テクノスジャパン、デロイトトーマツベンチャーサポート株式会社、東京海上日動火災保険、株式会社東レ、株式会社シグマクシス、住友商事株式会社、双日株式会社、ソフトドリンク株式会社、日清食品株式会社、日本経営システム株式会社、野村證券、パクテラコンサルティングジャパン、パナソニックオペレーショナルエクセレンス株式会社、パナソニックコネクト株式会社、P&G ジャパン、株式会社 Bee、株式会社リクルート、ルネサスエレクトロニクス、株式会社ローランド・ベルガー、KPMG、株式会社 NeU、株式会社 TBWA HAKUHODO、UHY 東京監査法人など

1年次 1週間のスケジュール（渡邊 皓太さん）

時間割	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
1時限 8:45～10:30	予習やレポート作成	講義（1コマ）	予習やレポート作成	講義（2コマ）	予習やレポート作成	家族と過ごす時間	
2時限 10:45～12:30	講義（1コマ）	予習やレポート作成	講義（1コマ）		ワークショップ		
3時限 13:15～15:00	グループワーク	予習やレポート作成	発表資料作成	予習やレポート作成	発表資料作成		
4時限 15:15～17:00	予習やレポート作成		グループワーク	講義（1コマ）			
5時限 17:10～18:55					講義（1コマ）		
7時限 20:15～22:00	講義（1コマ､金融戦略・経営財務の科目）	発表資料作成	予習やレポート作成	グループワーク 発表準備		予習やレポート作成	発表準備

講義の紹介

経営戦略

この講義では、経営戦略論の主要な領域である競争戦略と全社戦略に関する基本的な考え方を習得するとともに、その考え方を現実の経営現象に適用して高度に分析したり、実際の意思決定に応用するための能力を養います。経営戦略に関わる基本用語を表面的に知るのではなく、その考え方を深く理解して実践的に応用できる水準にまで戦略リテラシーを引き上げていきます。この高度な戦略リテラシーを深く体得するために、教員による講義に加えて、ケーススタディやグループワークなど、扱うテーマに応じて最適な教育手法が複合的に用いられます。

経営組織

この講義では、変化の激しい外的環境に効果的かつ効率的に適応する組織的な仕組みを構築すると同時に、内部の人々から組織目標の達成に必要なエネルギーを引き出すために必要となる、さまざまな組織理論や経営技法を身につけていきます。個人の動機付けに関わるミクロの組織論から、組織の設計や環境・制度との関わりを扱うマクロの組織論にいたるまでをカバーしながら、組織を運営するマネジャーとして必要なスキルを学んでいきます。このスキルを身につけるために、教員による講義に加えて、ケーススタディやグループワークなど、扱うテーマに応じて最適な教育手法が複合的に用いられます。

年間のスケジュール

1年次 調査・分析の基礎を学ぶ	4月	導入ワークショップ開始	科目履修開始
	5月		春学期試験
	6月		
	7月	導入ワークショップ最終報告会	夏学期試験 夏期集中講義期間 （7月下旬～8月上旬）
	8月		海外研修（選考あり） ※開催時期は年度で異なる
	9月	基礎ワークショップ開始	国内研修　※随時 一橋大学創立記念日（9/24）
	10月		秋学期試験
	11月		
	12月	基礎ワークショップ最終報告会	
	1月		冬学期試験 冬期集中講義期間（1月～3月）
	2月		マーキュリー会（同窓会）
	3月		成績発表
2年次 各自の問題意識に基づき研究	4月	ワークショップ開始	科目履修開始
	5月		春学期試験
	6月		
	7月		夏学期試験 夏期集中講義期間 （7月下旬～8月上旬）
	8月		海外研修（選考あり） ※開催時期は年度で異なる
	9月	ワークショップ中間報告会	一橋大学創立記念日（9/24） 国内研修　※随時
	10月		秋学期試験
	11月		
	12月	ワークショップ最終報告会	
	1月	ワークショップレポート提出	冬学期試験 冬期集中講義期間（1月～3月）
	2月		マーキュリー会（同窓会）
	3月		修了者発表 学位記授与式

※国内・海外研修につきましては、変更する場合があります。

経営管理プログラム

サブプログラム：
ホスピタリティ・マネジメント・プログラム

場　所　千代田キャンパス
開講時間　平日夜間・土曜

働きながらMBAを取得
実務経験を基盤に、理論的思考と組み合わせて
高度経営人材を目指す

佐々木 将人 准教授

経営組織論、経営戦略論

プログラムディレクターからのメッセージ

実務経験や問題意識を幅広い視野から捉え直す

経営管理プログラム（ホスピタリティ・マネジメント・プログラム）は、経営学、会計学、マーケティング、ファイナンスの4領域を中心として、広くかつ体系的に企業経営に関わる知識を学ぶことで、高度経営人材を育成するプログラムです。講義やワークショップでの教員との対話や学生相互のディスカッションを通じて「理論と現実の往復運動」を行う中で、皆さんの実務経験や問題意識を、一歩高い視座、幅広い視野から捉え直すことができるでしょう。また、本プログラムは、平日夜間・土曜日に千代田キャンパスで開講しており、東京都心で昼間お勤めの方が就業時間後や休日に通いやすい環境が整っています。当プログラムに参加し、教員や仲間との濃密な議論を繰り返しながら、ご自身の思考の基盤をつくり、未来のキャリアを切り拓いてください。

経営管理プログラムの特徴

POINT 1 体系的に理解して、知識基盤をつくる

経営学、会計学、マーケティング、ファイナンスの4領域を中心として、企業経営に関わる経営の体系的な知識を学びます。ワークショップでは、教員と学生を交えた密度の高い対話を通じて、深い洞察力を磨きます。

POINT 2 ビジネスの第一線で活躍する仲間が集う

さまざまな業界の第一線で活躍する受講生が参加しており、高次元で濃密なディスカッションの機会が多く、自身の事業課題や研究関心について新たな視点での示唆を得られます。修了後にも続く交流が期待できます。

POINT 3 未来のキャリアを構築する

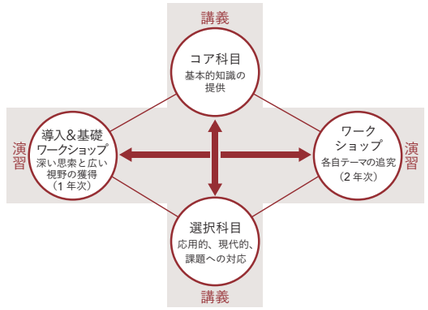
実務経験を基盤としながら、企業経営に関わる専門知識と分析能力を深めることで、変化する環境に的確に対応できる能力を身につけていきます。将来の起業家や経営幹部となりうる人材を育成します。

POINT 4 ホスピタリティ業界をリードする

サブプログラムのホスピタリティ・マネジメント・プログラム（観光MBA）では、経営管理プログラムの教育内容をベースにホスピタリティ専用科目を設け、ホスピタリティ産業の将来を担う高度経営人材を育成します。

カリキュラム

経営学・会計学・マーケティング・ファイナンスなどの基本的な知識の修得に加えて、高い視点と深い洞察に基づいて企業経営を構想するための独自プログラムを提供しています。

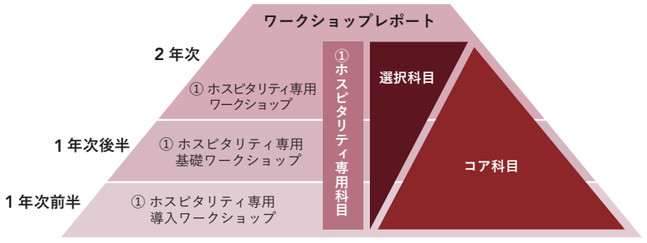


①講義 （コア科目、選択科目）	基本となるコア科目と、より進んだ内容を学ぶ選択科目を通じて、企業経営に関わる専門知識を身につけるとともに、高度なマネジメントに不可欠となる深い洞察力と広い構想力を身につけます。選択科目は、より発展的な専門知識を提供する科目と、実務家教員が講義を担当する実践的な科目によって構成されています。
②演習 **導入ワークショップ** （1年次前半） **基礎ワークショップ** （1年次後半） **ワークショップ** （2年次）	各種のワークショップはいずれも少人数で構成され、教員やグループメンバーとの密度の濃い対話を通じた深い学びの場になります。1年次から2年間をかけて段階的に学んでいくことで、自身の問題意識を研究課題として追究していくことができます。

ホスピタリティ・マネジメントに焦点を当てた観光 MBA プログラム（サブプログラム）

カリキュラムは、各領域の専任教員による講義と、ホスピタリティ産業やツーリズム産業に精通した実務家による講義で構成されます。このような組み合わせにより、本学のMBAコースが目指す「理論と現実の往復運動」を実現し、現実の場で生かせる思考力・分析力を構築していきます。同じ千代田キャンパスの日本語MBAコースである「経営管理プログラム」をベースにしながら、ホスピタリティ産業に関わる知見の習熟のための教育内容を加えた、サブプログラムと位置付けています。

ホスピタリティ・マネジメント・プログラムのカリキュラム体系



※コア科目・選択科目は経営管理プログラムと同じです。

※「観光 MBA」とは、観光庁の観光人材政策の一環として観光産業をリードするトップレベルの経営人材の育成のためにスタートした MBA プログラムです。

主な科目

コア科目	経営戦略、マーケティング、財務会計、企業財務、経営組織、マネジメント・コントロール、企業データ分析、経営哲学
選択科目	人材マネジメント、テクノロジー・マネジメント、M＆Aの理論と実務、シナリオ・プランニング、経営者講義A、経営者講義B、ビジネス・デベロップメント、経営実戦論、特別講義（イノベーション・マネジメント）など
ホスピタリティ・マネジメント・プログラム専用科目・特別講義	専用科目：ホスピタリティ・マネジメント、ホスピタリティ・マーケティング 特別講義：ホスピタリティ・アセットマネジメント、ホスピタリティ・コンサルティング、デスティネーション・マーケティング

在学生の声

自分自身の思考が深まり学ぶことが楽しい

竹内 順子さん

Q1 志望した動機について教えてください。

私は研究開発部門に属しています。管理職として、研究マネジメントを効率的に行い、研究のアウトプットの質を高めることが必要だと感じ、経営に関する知識を得て視座を高く持ちたいと思い進学しました。一橋を選んだ理由は、通学のしやすさだけでなく、一橋ならば自身の研究テーマを追究し、課題解決を見出せると思ったからです。興味深い講義に加え、さまざまな経験を持つ同期からの学びや、ワークショップを通じての自社の課題の整理など、自分自身の思考が深まる機会が多いと感じています。日々、学ぶことが楽しいです。

Q2 仕事や家庭との両立はどのようにしていますか。

業務は職場の方の理解により、講義の日は定時で終了しています。家庭では夫と中学生の息子がいますが、受講日をできるだけ集約し、息子が塾から帰宅するまでに夫が家に着くように協力してもらっています。

Q3 今後どのような人材を目指していきますか。

入学前は研究開発の視点から事業に貢献していきたいと思っていましたが、いずれは異動し会社の経営に近いところに関わるような人材になりたいと考えています。

修了者の声

起業・経営のための基礎力を身につける

ホスピタリティ・マネジメント・プログラム

コンサルティング会社　代表 今井 淳一さん（写真左）
CFO 永澤 俊輔さん（写真右）

このプログラムで身についたこと

今井さん　起業に必要な知識が得られるのはもちろん、その知識はコンサルティングサービスを提供するための基盤にもなっています。現実で対峙する事象は複雑であり、一見すると理論に当てはまらないことが多々ありますが、本プログラムにおいてケースと理論を往復する経験を得たことにより、現実を観察して抽象化し再び現実に反映する基礎力が身につきました。

永澤さん　過去の職務経験や専門性に基づいて自分なりに形成してきた思考の型を、周りから受ける刺激によって練り上げていく最高の機会になりました。企業経営の幅広い分野について深い学びがあり、意思決定の際の拠り所として今でも学習した知識を役立てています。

志望者へのメッセージ

ホスピタリティ産業に関わるビジネスキャリアに不可欠な知識、スキル、そして最高の仲間に出会える貴重な学びの場です。興味のある方はぜひ挑戦してみてください。

1年次 1週間のスケジュール（竹内 順子さん）

時間割	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
8:00							レポート作成 予習など
12:00	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	趣味	
16:00						講義（1コマ）	レポート作成・ ワークショップ準備 など
18:00							
20:00	ワークショップ	講義（1コマ）	講義（2コマ）	レポート作成	レポート作成	グループワーク	
22:00	レポート作成	レポート作成	レポート作成				
24:00							

6時限 18:20〜20:05
7時限 20:15〜22:00

講義の紹介

経営戦略

経営戦略の主要な領域である競争（事業）戦略と全社戦略について、(1) 講義、(2) ケースディスカッション、(3) 個人レポート、(4) グループワーク、の４点を組み合わせて、基本的な考え方を理解するとともに、それを応用するための基盤となる能力を習得していきます。この講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解した上で、現実の状況に適用できる水準で、分析・策定するための基本的な能力を獲得することを最終的な目標とします。講義での活発な議論を通じて、企業の経営戦略に関して広い視野と深い思考を養うことができます。

ワークショップ

ワークショップでは、学生自身の問題意識を出発点として、各自の研究課題を段階的・発展的に育てていきながら、深い探究を行っていきます。導入ワークショップ（1年次前半）では、議論と発表のトレーニングを行い、基礎ワークショップ（1年次後半）では、課題論文を通じて問いの立て方や調査・分析方法を学んでいきます。2年次からはワークショップレポート（学位論文に相当）に本格的に取り組みます。ワークショップは少人数で構成され、教員・メンバーとの密度の高い相互作用を通じた学びの場になっています。修了後もMBAでの学びを実業に生かすため、個人研究や仲間との研究会を立ち上げて、学びを継続している修了者も多くいます。

年間のスケジュール

1年次 調査・分析の基礎を学ぶ	4月	導入ワークショップ開始	科目履修開始
	5月		春学期試験
	6月		
	7月	導入ワークショップ最終報告会	夏学期試験 夏期集中講義期間 （7月下旬〜8月上旬）
	8月		
	9月	基礎ワークショップ開始	一橋大学創立記念日（9/24）
	10月		秋学期試験
	11月		
	12月	基礎ワークショップ最終報告会	
	1月		冬学期試験 冬期集中講義期間（1月〜3月）
	2月		マーキュリー会（同窓会）
	3月		成績発表
2年次 問いを深め、研究を展開する	4月	ワークショップ開始	科目履修開始
	5月		春学期試験
	6月		
	7月		夏学期試験 夏期集中講義期間 （7月下旬〜8月上旬）
	8月		ワークショップ夏合宿
	9月	ワークショップ中間報告会	一橋大学創立記念日（9/24）
	10月		秋学期試験
	11月		
	12月	ワークショップ最終報告会	
	1月	ワークショップレポート提出	冬学期試験 冬期集中講義期間（1月〜3月）
	2月		マーキュリー会（同窓会）
	3月		修了者発表 学位記授与式

金融戦略・経営財務プログラム

場　所　千代田キャンパス
開講時間　平日夜間・土曜日

データ分析能力とファイナンス思考力を習得
資本市場と対話し、
市場参加者を説得する力を育成

本多 俊毅 教授
ファイナンス
（証券投資、資産価格モデル）

プログラムディレクターからのメッセージ

データ分析に基づいた客観的な思考力を鍛える

金融戦略･経営財務プログラムは、2000年に創設されて以来、データ分析能力を鍛え、ファイナンスの思考能力を習得し、ビジネスリーダーとしての判断力を高めるプログラムを提供してきました。ファイナンスで必要となるのは、資本市場と対話する力、資本市場参加者を説得できる力です。そのためには、データ分析に基づいた客観的な思考力が必要となります。ビッグデータ、オルタナティブデータ、AIの時代と言われていますが、これからの長期的なキャリア形成を考えた場合、多様なデータを分析し、判断をしていく能力を身につけておくことが必須です。簡単なことではありませんが、金融戦略･経営財務プログラムであれば、限られた勉強時間で効率よく、プログラミングやデータ分析手法を習得することができます。

金融戦略・経営財務プログラムの特徴

POINT 1 ファイナンス思考の習得

資本市場と対話するためには、市場参加者がどのように考えるのかを学ぶことが必要です。「この事業は有望だろう」という主観的な予測に加えて、「市場はどう評価するか」と客観的に思考する力を習得します。

POINT 2 データ分析能力の習得

これからの時代、多様なデータを分析し判断する能力が必須です。金融戦略･経営財務プログラムであれば、限られた勉強時間で効率よく、プログラミングやデータ分析手法を習得できます。

POINT 3 修士論文の執筆

プログラミングや統計学を勉強するだけでは、資本市場参加者を説得できる能力は得られません。修士論文を書きあげることで、授業や演習を通じて学んだ知識や手法を実際に「使える」ようになります。

POINT 4 充実した修了者ネットワーク

2000年創設以来、数多くの修了者を輩出。マーケットやM&Aの現場で修了者と対峙したという話も良く聞きます。ファイナンス思考とデータ分析能力を本プログラムで身につけた多くの仲間が得られます。

カリキュラム

STEP 1 堅固な基礎力の獲得

現代ファイナンスの多様な領域に共通した「知識ベース」や「フレームワーク」を習得するために、「金融の経済学」、「統計・数理モデル」、「企業財務・企業経営」の３領域が用意されています。統計学、アカウンティング、エコノミクス、コーポレート・ファイナンス、コンピューテーション、分析ツールなど各人のニーズにあわせて基礎力を固める科目群があり、専門領域をより深く学習するための基礎を作ります。
こうした基礎科目群の履修を通じて、ファイナンスの思考法を身につけていきます。

STEP 2 専門性の追求

各人の実務上の課題や興味、目的に合わせて選択でき、さらに専門性を高めていくことができます。どの科目も、実務上のインプリケーションや成果を重視しています。また授業内で第一線の経営者・実務家をゲスト・スピーカーとして招聘するクラスも多く行われています。

他コース科目の履修

「法学研究科ビジネスロー専攻」やHUBの他プログラムの専門科目なども必要に応じて選択できます。

STEP 3 修士論文指導とゼミ

在学期間（最短2年）を通じて、全ての学生が少人数制のゼミに参加します。
ゼミでは学生が実務上の課題を選択し、ゼミ担当教員による懇切丁寧な指導の下、修士論文作成に向けて、学習した知識を総動員して解決策を模索していきます。
修士論文は、それ自体が大きな成果ですが、追究すべきテーマを発見し自分の中で学習成果を体系化していく貴重な機会ともなります。

主な科目

基礎科目	ファイナンス理論の基礎、ファイナンス理論、コーポレートファイナンスの基礎、会計･バリュエーションの基礎、金融データ分析の基礎、コンピュテーショナル･ファイナンス、金融数理の基礎
専門科目	金融数理入門、線形モデル入門、金融リスク計量入門、時系列分析入門、金融データリテラシーⅠ･Ⅱ、統計プログラミング入門、ポートフォリオ投資論、ファイナンスにおける諸問題、派生証券理論、投資戦略論、ファイナンシャル･リスク･マネジメント、金融数理、ベイズ統計学(MCMC法)、データサイエンス概論

在学生の声

「金融知識」と「自信」を身につけたい

柏倉 由希さん

Q1 志望した動機について教えてください。

入社10年目、初めての異動先では、主に海外の運用者を相手に運用商品のデューデリジェンスを行っています。しかし、圧倒的な知識・経験の差から彼らと対等に会話ができずに悩んでいた中、運用プロフェッショナルを相手に引けを取らない「金融知識」と「自信」を身につけたいという想いから大学院へ行くことを決めました。また、ファイナンスを学ぶ上で①一流の教授陣が揃っていること、②プログラムの内容と質、③修士論文という形で学びの成果をアウトプットできることが決め手となり、このプログラムを受験しました。

Q2 仕事や家庭との両立はどのようにしていますか。

会社はほぼ定時終了、家には夜遅くに帰宅という状況でも家族と職場の支え、理解があって両立できています。

また、睡眠時間確保のため、出勤前や昼休みの時間を活用して課題や予習を行っています。

Q3 今後どのような人材を目指していきますか。

私にとってMBAへの進学は大きな挑戦でしたが、そこで得た金融知識や貴重な人脈、自信を糧に、金融業界の成長と発展に貢献できる人材を目指していきたいです。

修了者の声

ファイナンスが必要ない事業はない

大手通信社勤務　西田 祥子さん

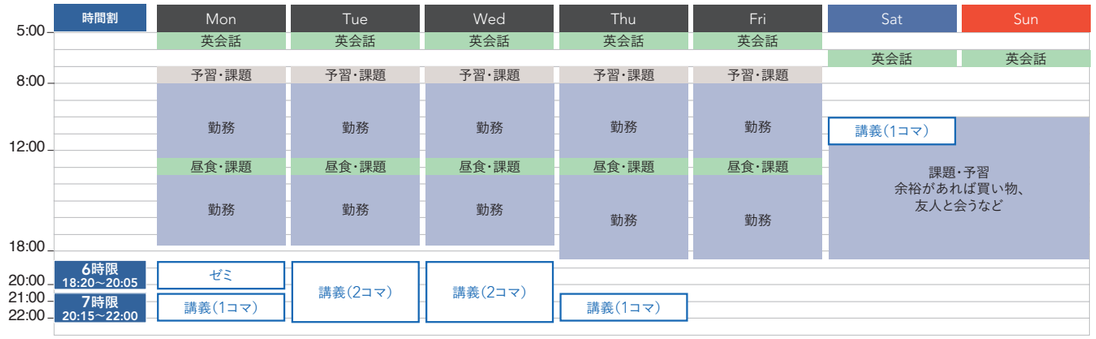
「このプログラムを選んでよかった」と思ったこと

ファイナンスが必要ない事業というものはなく、財務や投資の知識があれば、より解像度の高い事業成長を描くことができます。「経営陣と同じ目線で戦略を見渡したい」という想いもあり、コーポレート・ファイナンスに特化した大学院を目指しました。重視したのは、投資対効果。このプログラムは学生をお客様扱いせず、基礎から応用、実践まで鍛えてくれるため入学を決めました。

このプログラムで身についたこと

このプログラムでは、期末試験や修士論文はもちろん、ケーススタディに関するプレゼンや、企業再建プランの策定など知恵を絞るレポートも多く、授業を通して確かな知識、スキルが身につくように綿密に設計されています。MBAでの学びは転職後にベンチャー投資を担当するようになってからも生きています。

1年次 1週間のスケジュール（柏倉 由希さん）



講義の紹介

会計・バリュエーションの基礎

講義、ケーススタディを使ってDDM、DCF、残余利益モデルなどの標準的な手法を学びます。会計・バリュエーションに関連する理論に対する理解を深めることを目標とし、専門用語および分析モデルの背後にあるロジックを正確に理解した上で、講義で取り上げた分析モデルを用いて実際の企業を分析できるようになることを目指します。ガバナンス改革の影響といった現在の課題や、最近の会計研究の動向も紹介していきます。

データサイエンス概論

回帰分析、線形モデルといったデータサイエンスの基礎知識、および発展的な話題として、人工知能の開発でよく用いられる機械学習法（たとえば、サポートベクターマシン、ニューラルネットワーク、分類木（決定木）、階層的クラスタリング、k-means法、バギング法、ブースティング法など）について学びます。それら手法をプログラミングできるスキルを身につけることで、データ取得、データ浄化、データブラウジング、分析、モデリング、妥当性検証というデータサイエンスの標準的なフローを理解します。

年間のスケジュール

1年次 調査・分析の基礎を学ぶ	4月	**オリエンテーション 所属ゼミ決定**	科目履修開始
	5月		春学期試験 or レポート提出
	6月		
	7月		夏学期試験 or レポート提出 夏期集中講義期間（7月下旬～8月上旬）
	8月	**ファイナンスクラブ （勉強会・懇親会）**	
	9月		一橋大学創立記念日（9/24）
	10月		秋学期試験 or レポート提出
	11月		
	12月		
	1月		冬学期試験 or レポート提出 冬期集中講義期間（1月～3月）
	2月		
	3月		成績発表 同窓会イベント
2年次 各自の問題意識に基づき研究	4月	**在学生向けガイダンス**	科目履修
	5月		春学期試験 or レポート提出
	6月		
	7月		夏学期試験 or レポート提出 夏期集中講義期間 （7月下旬～8月上旬）
	8月	**ファイナンスクラブ （勉強会・懇親会）**	
	9月		一橋大学創立記念日（9/24）
	10月		秋学期試験 or レポート提出
	11月		
	12月		
	1月		冬学期試験 or レポート提出 冬期集中講義期間（1月～3月）
	2月		
	3月		修了者発表 学位記授与式 同窓会イベント

国際企業戦略専攻（ICS）

場　所　千代田キャンパス
開講時間　平日昼間

「2つの世界の融合（Best of Two Worlds）」
異なる文化・多様な学問領域・ビジネスに対する
さまざまな考え方の架け橋となる

鈴木 智子 教授

消費者行動論、マーケティング

プログラムディレクターからのメッセージ

世界にインパクトを与えるビジネスリーダー

ICS（国際企業戦略専攻）は、国立大学として日本初となる専門職大学院として1998年に設立され、英語で行うグローバルMBAプログラムを2000年に開講しました。海外のビジネススクールでも教鞭をとる教授陣が、世界トップレベルの授業を提供します。ICSでは、クラスを意図的に小規模に維持しており、一人ひとりにカスタマイズしたMBA教育を実現しています。学生は20カ国以上から集まっており、ダイバーシティの高い環境でさまざまな学習体験を積むことができます。「リーダーシップ開発の旅」として設計されている独自のコースを通じて、学生は（1）自分自身のリーダーシップ哲学とスタイルを発見し、（2）多様な視点を理解し、（3）予測不能で複雑な世界において、社会をより良くする賢い（wise）リーダーになるための一歩を踏み出します。

世界に大きなインパクトを与えることができるグローバル・ビジネスリーダーを目指すべく、ぜひご参加ください。

国際企業戦略専攻（ICS）の特徴

POINT 1 ワールドクラス：世界水準のMBA

QS世界大学ランキング※1日本国内1位（2023年）。国際認証（AACSB）・国内認証（ABEST21）※2取得。教員と学生の比率は1:5で、少数精鋭、世界水準のカリキュラムを提供。2年制と1年制の選択が可能です。

※1　イギリスの大学評価機関による世界の大学の教育を評価するランキング
※2　2005年に創設された日本に拠点を置く国際認証評価機関

POINT 2 グローバルネットワーク：世界に学ぶ

GNAM（世界32校間ネットワーク）に日本から唯一参加。イエール大学（米国）、インド経営大学院バンガロール校（インド）、ソウル大学（韓国）、中国人民大学（中国）、北京大学（中国）とのダブルディグリープログラムやトップ20校との交換留学制度を提供しています。

POINT 3 ダイバーシティ：多様性に富む学習環境

外国人学生構成比95%。女性構成比55%。平均年齢31歳。平均実務経験7年。さまざまなバックグラウンドを有する学生間の議論に基づく参加者中心学習（participant-centered learning※3）。

※3　代表的な実践法として、ハーバード・ビジネススクールのケースメソッドがある。

POINT 4 キャリアサポート：強力な進路支援

学生個々のキャリア形成を個別に徹底支援します。修了後6カ月以内の就労・内定率は95%で、外国人学生の日本就労率80%を実現しています。修了後の進路は、日本企業35%・外資系企業65%です。

カリキュラム

ICSの授業は全て英語で行われ、9月開始の学年歴を採用するなど、世界のトップビジネススクールに匹敵するMBAプログラムを提供しています。このプログラムでは2年制と1年制の選択肢を用意し、出願時にどちらかを選択していただきます（出願受理後にプログラムを変更することはできません）。入試選抜基準は2年制・1年制とも同じです。いずれに所属しても、1年次には全ての学生が一緒に学びます。

1年制・2年制の選択

1年制

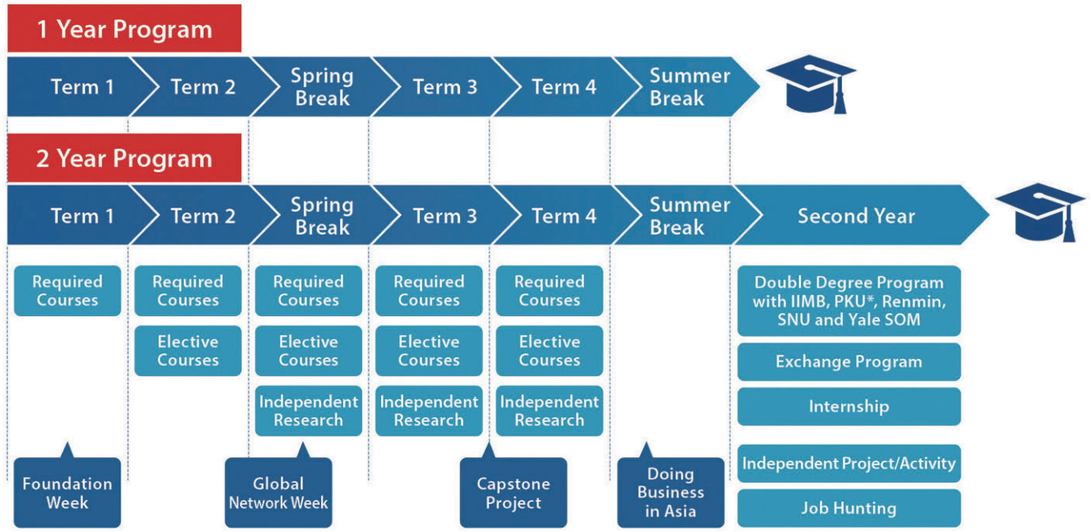
- MBA取得後にキャリアチェンジを考えていない方
- 企業派遣または文科省ヤングリーダーズプログラム（YLP）奨学金を利用する方
- 2年次での交換留学やインターンシップを考えていない方

2年制

- MBA取得後にキャリアチェンジを考えている方
- 自費で入学する方
- 交換留学、ダブル・ディグリーに興味のある方
- 企業でのインターンシップや海外での就業を視野に入れている方

プログラムの構成

Structure



主な科目

シグネチャー・コース	Leadership Development Journey, Seminar, Knowledge Management, Wise Leadership, Japanese Business & Economy, Doing Business in Asia, Rethinking Business & Management, Global Virtual Teams, Global Network Week, Capstone Project

在学生の声

国際的な視点を持ち英語で学べる日本のMBA

モーガン・ジェイミー・ラングさん

Q1 志望した動機について教えてください。

私は、10年間のハードワークを経て、一旦キャリアを中断し、海外生活を体験したいと考えていました。その際に、今後の進路を考える上で有益な時間の過ごし方をしたかったので、MBA取得を目指し、行先としては日本を選択しました。ICSは、日本で英語によるMBAコースを探していた私にとっては最適なプログラムでした。また、国際評価機関からの認証があり、グローバルな大学ランキングでも評価されるなど国際的な視点を持っていること、さらに国立大学であり、奨学金制度も充実しているため、学費もリーズナブルであったため、ICSが私にとってのベストの選択となりました。

Q2 仕事や家庭との両立はどのようにしていますか。

例えば、毎週1軒は新しいレストランを開拓するとか、東京のすべての区を巡るなど、学業や仕事以外の時間を充実させるための個人的な目標を設定することで、ワークライフバランスを取っています。

Q3 今後どのような人材を目指していきますか。

以前勤めていたエンターテインメント業界（アニメ・マンガまたはゲーム）で、またマーケティングの仕事をしたいと考えています。できれば母国アメリカと日本の両方に関わる企業で、私自身も両国とのつながりを強くしていければと願っています。

修了者の声

多様なバックグラウンドの同期と切磋琢磨

IT・ソフトウエア企業勤務　伏間 明子さん

「このプログラムを選んでよかった」と思ったこと

多様なバックグラウンドのクラスメイトと切磋琢磨し、グローバルに活躍するための知識と自信が身につきました。MBA定番の経営知識にとどまらないカリキュラムも魅力的で、データサイエンスや人的資本経営といった現代のビジネスに必須の知識や、リーダーシップや知識創造といった不確実な時代に求められる素養も養うことができました。現在は上場企業の企画職として働くなかで、プログラムで得た知識とスキルが役立っていると毎日のように実感します。

志望者へのメッセージ

このプログラムでの深い学びと仲間との絆は生涯の財産になりました。一度きりの人生、勇気を出して新しい世界に踏み出してみませんか？

1週間のスケジュール（モーガン・ジェイミー・ラングさん）

講義の紹介

Leadership Development Journey（LDJ）

「MBAをリーダーシップ成長の旅とする」というICS MBA プログラムの教育理念に基づいて提供される必修科目です。学生は一年を通じて、自らの世界観や価値観について振り返り、自身のリーダーシップスタイルを探求します。1対1のコーチングを通じて、学生一人ひとりに対応した個別支援を提供します。

Global Virtual Teams（GVT）

GNAM（世界有数のビジネススクール32校から成るネットワーク）を通じて提供される必修科目「Global Virtual Teams」（GVT）。グローバルかつバーチャルな環境で求められるリーダーシップを育成することを目的とします。オフラインで一度も会ったことのない学生たちがグローバルチームを組み、バーチャルなコミュニケーションを図りながら、チームビルディングやネゴシエーション・エクササイズに取り組んでいます。異なる文化背景を持ち、対面で会う機会がない相手と、いかに信頼を築き、協力して目標を達成するかを探求するものです。

グローバルネットワーク

GLOBAL NETWORK FOR ADVANCED MANAGEMENT

ICSは、世界有数のビジネススクールが加盟する連携協定「Global Network for Advanced Management」（GNAM）の創設メンバーで、日本における唯一の参加校です。

GNAMは、2012年に創設され、経済環境や文化背景が異なる国や地域に拠点を置く32校のビジネススクールが加盟しており、世界中のMBA学生と共に学び合う多種多様な学習機会を提供しています。

GNW 2019 TOKYO

教員紹介

経営分析プログラム

すべての教員紹介はこちら

熊本 方雄 教授

研究分野

国際金融論、貨幣マクロ経済学

円谷 昭一 教授

研究分野

財務会計

坪山 雄樹 准教授

研究分野

経営組織論

高田 直樹 講師

研究分野

イノベーション論、経営組織論
技術経営論

経営管理プログラム

すべての教員紹介はこちら

田村 俊夫 教授

研究分野

M&A、企業価値分析
コーポレート・ファイナンス

加賀谷 哲之 教授

研究分野

財務会計、企業価値評価

上原 渉 教授

研究分野

マーケティング、消費者行動論

鎌田 裕美 教授

研究分野

観光マーケティング
観光客の行動分析

金融戦略・経営財務プログラム

すべての教員紹介はこちら

中川 秀敏 教授

研究分野

金融リスク計量モデル
数理ファイナンス

野間 幹晴 教授

研究分野

財務会計、企業価値評価
企業変革

清水 良樹 准教授

研究分野

資産価格理論の実証研究、不動産ファイナンス、都市経済学、空間計量経済学

横内 大介 准教授

研究分野

データサイエンス、統計科学
データベース論

ICS

すべての教員紹介はこちら

藤川 佳則 教授

研究分野

マーケティング
サービス・マネジメント
グローバル・バーチャル・チームズ

服部 正純 教授

研究分野

金融経済学

孫 康勇 准教授

SUN, Kangyong

研究分野

Digital Innovation and Transformation,
Corporate Entrepreneurship,
Management of Innovation,
Entrepreneurship, Global Management

リー・ジンジュ 講師

LEE, Jinju

研究分野

戦略マネジメント、国際ビジネス

入試情報・学費

入試情報

各プログラムによって異なります。各プログラムの募集要項には最新情報が掲載されていますので、
必ずそちらもご確認ください。

プログラム名		定員	入試時期	出願期間	1次試験	2次試験	入試情報
経営分析プログラム	一般選考	40名	ー	7月中旬	8月下旬　筆記試験	9月中旬　口述試験・書類選考	
	企業派遣特別選考		第1期	9月下旬	10月中旬　書類選考	11月上旬　口述試験	
			第2期	1月上旬	2月上旬　書類選考	2月中旬　口述試験	
経営管理プログラム		53名	第1期	9月下旬～10月上旬	10月中旬　小論文・書類選考	11月上旬　口述試験	
			第2期	1月上旬	2月上旬　小論文・書類選考	2月中旬　口述試験	
	ホスピタリティ・マネジメント・プログラム	10名	第1期	9月下旬～10月上旬	10月中旬　小論文・書類選考	11月上旬　口述試験	
			第2期	1月上旬	2月上旬　小論文・書類選考	2月中旬　口述試験	
金融戦略・経営財務プログラム		41名	秋期募集	9月下旬	10月下旬　書類審査	11月上旬　口述試験	
			冬期募集	1月上旬	2月上旬　書類審査	2月上旬　口述試験	
国際企業戦略専攻（ICS）		58名	第1次	8月上旬～10月上旬	11月下旬　口述試験（オンライン）	-	
			第2次	11月上旬～2月上旬	3月下旬　口述試験（オンライン）	-	

学費

一橋ビジネススクールの入学金は282,000円（初年度のみ）、授業料は642,960円です。
2年で修了する場合の合計金額は1,567,920円となります。

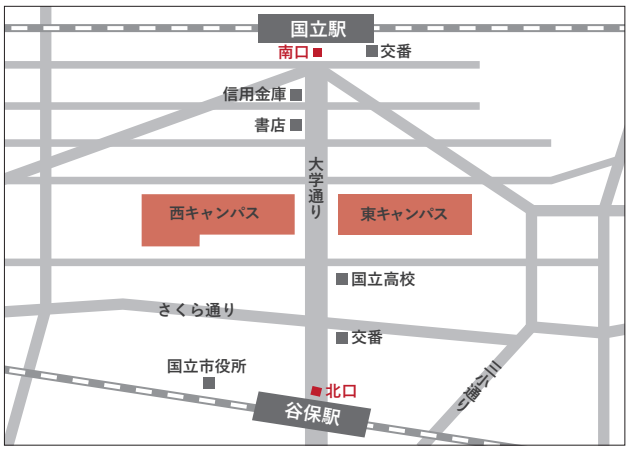
一橋大学では、「高等教育の修学支援新制度」、日本学生支援機構貸与奨学金、学内奨学金、民間奨学団体・地方公共団体の奨学金など、さまざまな奨学金を扱っています。
また、各プログラムは、厚生労働省が実施する教育訓練給付制度の対象です。
※経営分析プログラムは申請中（2025年2月現在）

お問い合わせ先

経営分析プログラム ／ 経営管理プログラム　info@cm.hit-u.ac.jp
金融戦略・経営財務プログラム　chiyoda-info@hub.hit-u.ac.jp
国際企業戦略専攻（ICS）　ics-opencampus@ics.hub.hit-u.ac.jp

国立キャンパス

〒186-8601
東京都国立市中 2-1



アクセス

JR 中央線 国立駅 徒歩約 10 分

JR 南武線 谷保駅（北口）徒歩約 20 分
国立駅行 一橋大学下車 バス約 6 分

千代田キャンパス

〒101-8439
東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター内

アクセス

東京メトロ 半蔵門線 / 都営地下鉄 新宿線・三田線
神保町駅 A8 出口 徒歩約 3 分

東京メトロ 東西線
竹橋駅 1b 出口 徒歩約 4 分

HUB ポータルサイト
https://www.hub.hit-u.ac.jp/